

おらいな畑の脇に 藤九郎の舎弟の墓がある

三谷幸喜原作・脚本の2022年NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」、そこに登場したイケメンの武将、安達藤九郎盛長。実は盛長の本名は“藤原”だった？

そんな真相を打ち明けるのは松村邦洋「鎌倉殿の13人」を語る、という単行本（松村邦洋・ダイヤモンド社）。この本の巻末に参考図書が並んでいて、そこに「てらやままだら」とあるけど、それがここにご紹介するかしやぐら通信の『てらやままだら』。

何で『てらやままだら』が藤九郎盛長のことに触れているのかって、それは藤九郎盛長の舎弟の末裔のばあちゃんが話してくれた事がそもそもの大元だから。

ばあちゃんは安達盛長を藤九郎と呼ぶ。歴史上の人物なのに親しそうになって、そりゃ、ばあちゃんは藤九郎の舎弟の末裔だから。ばあちゃんの家では本家も、大本家も藤九郎盛長という名が毎日のごはんのように当たり前に出てくる。

ばあちゃんの生まれ故郷は山また山の中、みちのく山形の、それこそ山ん中。今は集落の道をイノシシが鼻でかき回して凸凹してるけど、限界超えた集落だけど、中世、平安末期に大いに栄えた森の中。修験も山師もここを歩いた。平安時代末期、武士が仕掛ける政変に東北の山の中が関係していたんだ。黄金に輝いてね。

藤九郎って何者さ？

貴族の時代から武士の時代へ。平安末期、日本は揺れ動いていた。幕末や今の日本の揺れ方と似てるかな。天変地異。政治の混乱。いやなセンサーもさ。揺れてるんだ、世の中。

そんな中、日本を統一したのは源頼朝と頼朝を担いだ京の下級官僚。そして頼朝を武力で支えた東国の武士たち。『てらやままだら』が語る。中世日本の転換期を作る人たちのこと。頼朝、文覚、西行、金売り吉次。そして、彼らに関わり、動かし、鎌倉政権を育て上げる藤九郎のこと。今まで語られることのなかった切り口で捉える中世武士の実像と伝説。四つの物語が折り重なって『てらやままだら』に浮かび上がる。

本当に、藤九郎って何者なのさ？

てらやままだら

KhasyaReport

kindle paperback

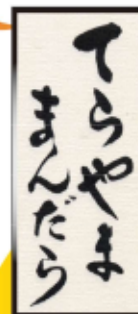
出版社 Independently published

ペーパーバック 144 ページ

ISBN-13: 979-8392177103

ペーパーバック
てらやままだら

kindle paperback



おらいな畑の脇に藤九郎の舎弟の墓がある

金山堂

丹野富雄

khasyaReport